令和 7 年度

特別の教育課程の実施状況及び評価等について

つくばみらい市立富士見ヶ丘小学校

1 特別の教育課程の内容

（1）特別の教育課程を編成・実施する学校

つくばみらい市立富士見ヶ丘小学校

（2）特別の教育課程の概要

「グローバル人財」の育成を目指し、急速に進展するグローバル化に対応することができる人材を育成するため、小学校 1年生～2年生において、生活科の 35 時間分（1年生は 34 時間分）を設定する。「英語活動」においては、つくばみらい市独自に配置している外国語指導助手（ALT)との 交流の機会を多く設け、体験的な活動をとおして外国語や異文化を理解し、自他の文化や価値を尊重することができるグローバルな視野や態度の素地を育む学習を行う。

（3）学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

つくばみらい市では、保幼小中において連続性のある教育を推進し、市内の民間施設を含む保育所・幼稚園・認定こども園で、ＡＬＴとの英語での交流機会を設けたり、英語を用いた遊びなどを積極的に取り入れたりしている。保幼小中の連携を図るために、就学前の学びを小学校入学後においても継続する必要性があり、特別の教育課程を編成する必要がある。

（4）特例の適用開始日

令和6年4月

（5）取組の期間

令和8年3月 31 日まで

2 特別の教育課程の編成・実施計画に基づく実施状況

・計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

3 特別の教育課程に基づく教育の実施状況に関する自己評価結果

（1）第1学年児童による評価

① 英語活動の勉強は好きですか

	割合（%）
とても好き	６０．１
好き	２１．４
ふつう	１５．６
あまり好きではない	２．９

② ALT の先生といっしょの活動は楽しいですか。

	割合（%）
とても楽しい	７８．０
楽しい	１３．３
ふつう	７．５
あまり楽しくない	１．２

③ 英語をもっと話せるようになりたいですか。

	割合（%）
とても話せるようになりたい	７５．１
話せるようになりたい	１９．７
あまり話せるようになりたくない	２．９
話せるようになりたくない	２．３

④ 外国のことをもっと知りたいと思いますか。

	割合（%）
とても知りたい	６４．７
知りたい	２４．９
あまり知りたくない	６．９
知りたくない	３．５

（２）第２学年児童による評価

① 英語活動の勉強は好きですか

	割合（%）
とても好き	５８．０
好き	１９．９
ふつう	１４．４
あまり好きではない	７．７

② ALT の先生といっしょの活動は楽しいですか。

	割合（%）
とても楽しい	５５．３
楽しい	２７．６
ふつう	９．４
あまり楽しくない	７．７

③ 英語をもっと話せるようになりたいですか。

	割合（%）
とても話せるようになりたい	７９．０
話せるようになりたい	１１．０
あまり話せるようになりたくない	８．３
話せるようになりたくない	１．７

④ 外国のことをもっと知りたいと思いますか。

	割合（%）
とても知りたい	６１．３
知りたい	１８．２
あまり知りたくない	８．３
知りたくない	１２．２

（３）保護者による評価

① 小学校１年生から外国語教育に取り組むことは、良いと思いますか。

	割合（%）
とてもそう思う	７０．３
そう思う	２６．７
あまりそう思わない	３．０
思わない	0

② お子様は、外国語教育の時間を楽しみにしていますか。

	割合（%）
とても楽しみにしている	２４．８
楽しみにしている	５３．３
あまり楽しみにしていない	１９．２
楽しみにしていない	２．７

③ 小学校１年生から外国語教育に取り組んでいることで、お子様が英語を繰り返し学ぶ機会が増えていると思いますか。

	割合（%）
とても増えていると思う	１８．５
増えていると思う	６５．３
あまり増えていると思わない	１５．０
思わない	１．２

④　小学校１年生から外国語教育に取り組むことは、グローバルな視野を身に付けることにつながると思いますか。

	割合（%）
とてもそう思う	３４．９
そう思う	５５．４
あまりそう思わない	９．０
思わない	０．７

⑤　小学校１年生から外国語教育に取り組むことで、お子様にどんな力がついていると思いますか。

	割合（%）
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度	１０．１
英語を聞く力	３３．７
英語を話す力	１７．２
異文化への理解	２７．２
相手に配慮する態度	0
分からない	１１．８

（４）学校関係者（教職員）による評価

①　小学校１年生から外国語教育に取り組んでいることはよい。

	割合（%）
大いにあてはまる	７５．０
あてはまる	１３．９
あてはまらない	１１．１
全くあてはまらない	0

②　小学校１年生から外国語教育に取り組んでいることで、児童が英語を繰り返し学ぶ機会が増えている。

	割合（%）
大いにあてはまる	７２．２
あてはまる	１９．４
あてはまらない	８．３
全くあてはまらない	0

4　実施の成果と今後の課題

（1）成果

・児童アンケートにおいて、1 年生の 81.5%、2 年生の 77.9%が英語活動を「好き・とても好き」と回答しており、極めて高い意欲が示された。特に「英語をもっと話せるようになりたい」という肯定的な回答が両学年とも 9 割を超えており（1 年 94.8%、2 年 90.0%）、低学年からの実施が英語学習への動機付けに大きく寄与していることが確認できた。

・「ALT との活動が楽しい」とする児童が約 8 割から 9 割に達しており、市独自の ALT 配置を生かした体験的活動が、異文化への親しみやグローバルな視野の素地形成に繋がっている。

・保護者アンケートでは、1 年生からの実施について 97%が肯定的であり、その意義が広く理解されている。就学前の英語体験を小学校 1 年生で途切れさせることなく継続させることで、児童が違和感なく外国語活動に親しむ土壌が整えられた。

・教職員の約 9 割が低学年からの実施を「よい」と評価しており、繰り返し学ぶ機会が増えたことによる学習の定着を実感している。中学校免許保持者等の専門性を生かした指導体制が、学校全体の教育の質を支えている。

（3）今後の課題

・1 年生と比較し、2 年生では「英語がとても好き」という回答が若干減少し（60.1%→58.0%）、「あまり好きではない」等の否定的な回答がわずかに増える傾向が見られる。学年が進むにつれて内容がマンネリ化しないよう、発達段階に応じた教材開発やアクティビティの工夫が求められる。

・保護者アンケートにおいて、英語を学ぶ機会が増えたことへの実感（83.8%）に対し、「どのような力がついているか」という問いでは「わからない」との回答が 11.8%存在した。家庭に対しても、児童がどのような資質・能力を身に付けたかを具体的に共有（通信や動画活用等）し、成果を可視化していく必要がある。

・保護者が実感している成果として「英語を聞く力（33.7%）」や「異文化理解（27.2%）」が高い一方で、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度（10.1%）」は相対的に低い。単に聞くだけでなく、自分の思いを英語で伝えようとする「発信」の場面をより意図的に設定することが課題である。